

●ノロウイルスに注意しましょう。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は、特に冬に流行します。手指や食品などをとおして口から感染し、吐き気、嘔吐と下痢、腹痛などを起こします。潜伏期間は平均 1〜2 日と比較的短く、乳幼児や高齢者や病気のため抵抗力の弱いかたなどは重症化することがあります。

ノロウイルス対策

①手洗い

せっけんを使って 30 秒以上洗いましょう。調理前、食事前、トイレの後、オムツを交換した後は特に念入りに洗いましょう。

②食品の加熱

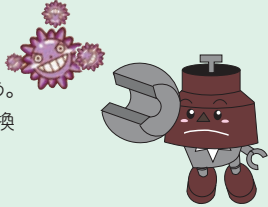
生鮮食品、特に二枚貝（アサリ、シジミ、カキなど）は 85 度以上で 1 分以上加熱し、中心までしっかり火を通しましょう。

③嘔吐物や便の処理

感染の拡大を防ぐには嘔吐物や便の処理が重要です。嘔吐物の処理の際は使い捨てのビニール手袋、マスク、ペーパータオルを使いましょう。ふき取った嘔吐物はすぐにビニール袋に入れ、しっかり口を閉じ処理しましょう。オムツや下痢をしている時の便の取り扱いも同様に注意して行いましょう。

ノロウイルスになったら

水分をしっかり取りましょう。飲める物を少しずつ飲んで脱水を予防してください。吐き気のあるときは無理に食べなくても大丈夫です。乳幼児や高齢者が脱水に陥ると命にかかわります。水分を取れない場合は病院を受診してください。飲んだ水分の量・便の回数・尿の回数・嘔吐の有無を記録しておく、治療に役立ちます。



■「乳幼児とインフルエンザ」

川口市立医療センター

新生児集中治療科 医師 前澤 身江子



インフルエンザはインフルエンザウイルスを病原とする気道感染症です。ウイルスの感染後、1〜3日間ほどの潜伏期間を経て、38℃以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが現れ、咳、鼻水などが続き、約1週間の経過で軽快するのが典型的です。

小児では中耳炎の合併、けいれんやぜんそく発作の誘発、また幼児を中心として、けいれんが長時間持続し、急激に全身状態が悪化し、死亡することもある急性脳症の合併も知られています。

6カ月からワクチン接種は可能ですが、1歳未満児では抗体が充分にできず、接種しても罹患してしまう可能性があります。兄弟が多い、保育園へ行っているなどの感染のリスクが高い場合には、ワクチン接種が勧められています。しかし、乳幼児の感染予防の基本は家庭にウイルスを持ち込まないこと、赤ちゃんよりも家族がしっかり予防接種を受けること（授乳中のお母さんも可）、赤ちゃんを人混みに連れて行かないことなどが最も大切です。

授乳中にインフルエンザに罹患した場合も、母乳は中止せず継続することが勧められています。抗インフルエンザウイルス薬である、タミフル、リレンザを使用中でも授乳に影響はありません。ただし、お母さんの気道分泌物から赤ちゃんへの感染があるため、マスク、手洗いなどを励行しましょう。



熟練の技が生み出す逸品

筆師 関

芳次さん (東領家3)

筆はどのように作られるかご存知だろうか。毛を切って柄に固定するだけの作業を想像するが、実は気の遠くなるような反復作業が繰り返され、永年の経験と技術が求められる伝統工芸品だ。「使って良かった」そう言ってもらえることを何よりの喜びとする筆づくり一筋60年、絵を描くときに使う画筆作りの技を今に受け継いでいる。

筆は完成するまで1カ月ほどかかる。その工程のほとんどは、羊やイタチなどいろいろな動物の毛を選び、絶妙なバランスで混ぜ合わせ、毛先を整えることに費やされる。まためた毛を金櫛で何度も梳いて、使えない毛をさらい出すことを繰り返す。「毛一本の有無で書き味がまるで違うので、指先まで神経を集中させて気を抜くことができません」。毛の状態を確かめながら丹念に作業していく。「このカーブのおかげで良い筆ができます」と言うように、直線だった金櫛の歯が数年使っているうちに半月状に磨り減ってしまう。

作業場は閑静な住宅街の一室にある幅60cmほどの小さな机。毎日朝9時から夜6時まで、

じつと椅子に座って筆作りに励む。「作業に集中しないと良い筆ができないので、途中でやめられませぬ」。部屋にはトントンと毛をそろえる音や毛をまとめるときに使う松ヤニの匂いがかすかに広がる。決して妥協せず、相手が納得するまで何度も相談しながら最高の筆を作り上げる。

アトリアで開催された「川口の匠」で筆が展示され、少なからず反響があった。「私が何を作っているのか知らなかった近所の人が見に来てくれて、町会で筆の展示をお願いされました」。また、筆づくりの実演では、子どもたちの真剣な眼差しが印象的で、ものづくりの未来は明るいと感じた。「生涯現役を目指します」常に前を見つめる姿勢と共に、匠の技が伝承されることを願う。(秀)



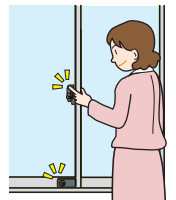
年末の犯罪にご注意を



年末は、何かと慌ただしく、防犯意識が薄れがちとなり犯罪が多発する時期です。しかし、ちょっとした心掛けで、犯罪被害から身を守ることができます。犯罪を防ぎ、明るい新年を迎えましょう。

◎侵入盗対策

- ・玄関や窓に2つ以上のカギを取り付け、短時間の外出でも確実に戸締り・鍵掛けをする。
- ・留守中も部屋の電灯をつけて、在宅を装う。



◆路上犯罪対策

- ・夜間は、人通りが多く明るい道を通る。
- ・歩きながら、携帯電話やメールをしない。
- ・もしもの時のため、防犯ブザーを持って外出する。

相談窓口

- ・川口警察署 ☎048-253-0110
- ・武南警察署 ☎048-286-0110

問防犯対策室 ☎048-242-6361